

2024年度第4回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会 議事録

1 日時：2024年6月18日（火）午後8時00分から

2 方法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9名

出席者：座間直壯、雨谷逸枝、清田義昭、小池信彦、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、堀 渡

欠席者：保坂一房

事務局員の参加：なし

4 議事

(1) 第1号議案 会員の動向について

【報告】

・6月18日（本日）現在

・正会員：個人77、団体2（計79） ・賛助会員：個人27、団体2（計29）

合計：個人104、団体4（総合計108名・団体）

※前回の理事会（5月21日）の報告から、変化なし

(2) 第2号議案 総会記念講演会の講演内容の活用について

【報告】

・講演後に講師から「講演要旨」の文章と会場で投影した「パワポ画像」のデータが提供された。当日講演会に参加されていた22名の方には、この両方をメール配布やプリントの郵送などの方法で配布した。

・今後「講演要旨」の内容は、7月発行予定の『多摩デポ通信』に掲載したい。「パワポ画像」の方は、その『通信』紙面で紹介して、「講演要旨」と共にホームページに掲載したい。

・講演者が提起されたことを念頭に周囲を見回すと、思い当たる危惧がある。利用者にとっては望ましいNDLの蔵書デジタル化が、20世紀末までの出版物に及ぶようになると、全国の公共図書館では、建物の建替時期を迎えた時、書庫の面積がかなり削られてしまうのではないかと。また、今はとりあえず維持されている東京都立図書館の蔵書保存の期限が狭められていくのではないかと。

・この講演を元に『多摩デポブックレット』を制作・発行することは、前回の理事会で決定された。内容の濃い講演だったので、量的にそのままではブックレット紙面に収まらないのではないかと考えられる。現在、講演データの文字量の見当をつけながら、どう作業を進めるかを検討している。ご意見を伺いたい。

【討議】

・講師から提供されたデータの公開の仕方だが、事務局の提案でいいと思う。

- ・ブックレット化には半年近くはかかるから、次号の『多摩デポ通信』で紹介し、ホームページで公開する流れでいい。後でブックレットが発行出来れば、ホームページに置いたコンテンツの詳細が再び見られることもあるだろう。
- ・講演は、オートメモによる機械的文字起こしでは3万字ぐらいある。図表を入れる必要もあり、通常ページ数のブックレットで全文掲載は無理。3部構成だったが、第3部の「国立国会図書館と公立図書館との連携協力」を中心に据えるのでどうか。
- ・方針を決めて講演者と相談し、通常の仕様のブックレットで収録可能な範囲でまとめてほしい。
- ・講演は当日ビデオ録画をした。しかし再生してみると講演者が話す様子は録画できているが、会場で投影したパワポ画面が入っておらず、記録としては不十分だった。

(3) 第3号議案 府中市の蔵書目録へのISBNデータ遡及入力援助事業の予定について

【報告】

- ・6月11日に(株)カーリルとの共同研究のZOOM会議を再開できた。今年度初めての開催で、事業を今年度行う段取りが話された。
- ・府中市の残る一般書の作業は、(株)カーリル側では、これまでの結果を踏まえ機械推定システムを改良、再度、該当データをシステムにかけ、次の7月23日の会議に推定結果を提供する。その後にデータの検証作業をすることになるので、多摩デポ側は、それまでにできる準備を進めておく。
 - ① 前回の児童書作業の過程で発見したNDLの書誌間違いをリスト化し、NDLウェブサイトにある「問い合わせ」→「当館の目録の訂正」に送り情報提供したい。再度洗い出せばもっとあるだろうが、まず4件だけ送りたい。検証作業の規範に使えとを考えていたNDLの書誌だが、間違いがある場合を想定しマニュアルの改訂が必要になるなど、今後の作業の流れにも関わる。
 - ② 前回の作業(事務局、理事長、ボランティア)による反省会、意見交換会を7月初旬に開催して、次回に生かしたい。
 - ③ マニュアルの再整理、募集準備などを行い、作業開始に備える。
 - ④ 7月23日の会議以降、作業を開始する。一般書(9類)は件数が多い。これまでと方針を若干変更して、前回より推定確率が高そうなレベルの検証作業にとどめる。ISBN遡及推定の「研究」を突き詰めるというより、府中市立図書館で蔵書目録の手直し、実装を進めやすい方向を選択したい。

【討議】

- ・事務局の報告は了解した。一般書の作業は進めてほしい。
- ・新たな話題は、児童書作業でNDLの書誌間違いが見つかった。検証作業ではNDLの書誌を規範に使っていたが、個々の作業で、「NDLの書誌が違うのではないか」と疑問が出て、他の図書館の書誌や現物をさらに確認して確定するケースがあった。

今度のマニュアルでは、NDLの書誌の扱いを書き直すのも宿題ですね。

- ・田中久徳氏の講演の後、田中氏に「NDLの書誌間違いが我々の作業で見えてきたがどうしましょう」と相談した。「あり得ることなので、NDLに教えてほしい」と言ってもらえた。NDLホームページの問い合わせ窓口から送って反応を見ることになった。とりあえずはつきり違っていた4件のデータを送ることになった。
- ・その経験で、作業マニュアルのNDLの書誌の扱いを書き直すのが、一般書作業と同様な書誌間違いが見つかった時は、NDLに連絡して書誌訂正してもらうことも、副次的な後処理の流れとしたい。
- ・7月23日のカーリルの研究会後になるが、いつから始められるかは未定。このような流れで今年度の作業が始まることは了解した。
- ・一般書作業でのボランティアは、児童書での経験者以外にも募集したいが、マニュアルと作業工程の検討があるので、具体的な作業をボランティアに分担する前に、事務局で少量を試しにやってみるのがいいかもしれない。

(4) 第4号議案 第2回多摩地域ライブラリアン講座について

【報告】

- ・今年度(第2回)は、受講料6,000円、12人を目途に受講者を募集したい。
- ・応募資格は、多摩地域公立図書館の業務に従事する者、及び「多摩デポ」の会員。
- ・受講料支払いの出所は自費、公費(役所負担、会社負担)を問わない。
- ・前回の講座の構成と進行、オンデマンド講義の講師とプログラムを基本とし、一部を変更。事務担当も同じ人に頼みたい。こういう方向で準備を詰めている。
- ・前回は応募の申込みが遅かった。募集開始後に苦労しないよう、9月初旬の講義開始を目指してスケジュールを組む。募集にアイデアがあればいただきたい。
- ・募集開始は次の定例理事会前になることを了解して下さい。

【討議】

- ・募集チラシの最後に、前回参加者の感想を載せられたのは、どういう講座か見当をつけやすく、よかったのではないか。
- ・7月10日に館長会の例会があるので、チラシを配りに行きたい。

(5) 第5号議案 『東京都立中央図書館50周年記念誌』の内容について

【報告】

- ・今年3月15日に、東京都立中央図書館の編集・発行で、全109ページの『東京都立中央図書館50周年記念誌』が発行された。
- ・印刷され送られたようで、既に各市の図書館に蔵書登録されている。今回は同時にPDFデータが都立図書館のウェブサイトから公開されており、誰でも全文プリントし

たり読んだりすることができる。

- ・前には、2003年（平成15年）に、『東京都立中央図書館三十年史』が発行されている。「それ以後の20年の歩みを中心に編集」（同誌「編集にあたって」より）と書かれているが、ちょうど2001年4月に東京都教育委員会に「都立図書館あり方検討委員会」が設置される前後からの動きを、（当然、この記念誌の編集が開始された最近からのバイアスがかかるだろうが）経年的に見ていくことができる。
- ・この20年は、「あり検」後の都立図書館の方針の改変だけではなく、市区町村立図書館と作っていた「東京都公立図書館長協議会」の解散（2005年3月）、日比谷図書館の千代田区移管（2009年7月）、都立多摩図書館の移転開館（2017年1月）など、大きな動きがあった。
- ・都のウェブサイトの『50年記念誌』データから、内容を拾って添付資料とする。
 - ・昨年夏の「多摩デポ講座」の時の都立図書館側の説明・やり取りとその後の調査、「多摩デポ通信」の記事掲載で見えたこと的背景事情が見えてくる。
 - ・この20年間に都立内部であった各検討や動きのニュアンス、新「都立多摩」に大型書庫が確保されたことで、保存・除籍について20年前の「あり検」路線が一部保留されている状況も正直に書かれている印象がある。
 - ・事務局会議では、20年前に急激に縮小しようとした都立の保存・除籍が、保留されているのは、市町村立図書館からの反対や多摩デポなどの動きも影響しているのではないかという意見もあった。
 - ・「収集は一点一冊、保存は発行後30年の時点で見直し」方針だったのが、30年経過後も見直し・除籍しないでいる現状が今後どうなるか、例えばNDLの蔵書デジタル化が除籍実施の引き金になっていかないかなどが懸念される。
 - ・多摩デポや、区立や市町村立図書館の側は、この文献をよく読んで考えておく必要があるのではないか。『多摩デポ通信』に記事を載せ、注意喚起をしたい。

【討議】

- ・去年、都立中央に書庫見学に行き、除籍の現状を聞きたいと申し入れた。『50年史』を作成中だとはこちらは意識になかったが、あの時に都立側が話してくれたことが出てきている。
- ・「蔵書は発行後30年で見直し（選んで）除籍する」は実行されていない。しかし「方針が撤回されたわけでない」みたいな言い方をされていたが、現状が読んでわかる感じがした。
- ・「一冊収集、発行後30年の有期保存で、以降扱いを見直す」までは書いてあり、少し飛んで、「新多摩図書館の書庫が大きくなるから扱いを検討中」とあり、「そこに大量移送し始めた」とあり、方針を見直したとは書いてない。だから「蔵書は30年有期保存、それ以降の扱いは検討」をどう具体化するかは保留のままなのではないか。
- ・書庫がきつくなるとか、具体的事情が出てくれば変わりうる。NDLの蔵書デジタル化が済んだ蔵書は、容易に内容を提供できるのだから除籍するとか。選んで除籍する

理由が作られるかもしれない。しかし都立図書館の中だけで、理屈付けと実施をされてはいけない。都立図書館が除籍を保留しているこの間にこそ、市区町村立図書館との議論を再開してもらいたい。

- いずれは都立中央も建替え問題が出てくる。そういう時の条件の議論にも繋がってくる。田中さんの講演のブックレットは非常に大事な意味を持つと思う。
- 市町村側も、各タイトル2冊まで残す方針が1冊でいいじゃないかとか、都立図書館に未所蔵図書だけ残すのでいいじゃないかとか。議論のテーブルに着けば、互いの値切りの議論が出てくるかもしれない。それでもテーブルに着かないことには始まらない。互いの信頼があればいろんな話が出てくるだろう。多摩の市町村の図書館だけで保存体制が確立できない以上、一緒に議論できる場を求めていかなければならない。そのためには館長会がしっかりしないといけない。それをサポートするのが我々。多摩デポだけで都立と保存の議論のテーブルに着くことはできないので、館長会の立場は重要だ。
- 2011年6月に「東京都立図書館経年除籍図書指定基準」を策定したという記述(p12)がある。これは30年の保存期間と対応するような形で出たものではないかと思う。この基準そのものを読めないかと探してみたが、まだ見つからない。

(6) 第6号議案 『多摩デポ通信第68号』の予定について

【報告】

- 5月18日に実施した2024年度通常総会の報告、総会記念講演会の報告、講演要旨の掲載(3ページ)、講演会を聞いた参加者の感想。
- 「第2回多摩地域ライブラリアン講座」内容案内、募集。(A)
- 「府中市の蔵書目録に未記載のISBNの機械的推定データの検証作業開始……ボランティア募集」(B)
- 単発の多摩デポ講座か、見学会の募集企画を載せられればいい。(C)
- 『東京都立中央図書館50周年記念誌』の内容紹介、注意喚起、コメント。
- 7月中には発行したい。
- 発行日は、(B)のことを考えると7月23日以後、(A)のことを考えると7月中旬までには出したい。
- (C)の企画は、事務局会議では決まらず、提案できない。アイデアがあれば。

※以上のような検討の現状です、ご意見を伺いたい。

【討議】

- (C)の多摩デポ講座は、この前の三康図書館とビッグライブラリの見学もすごく面白い見学会で、参加者は満足されていたと思うが、平日で、参加した現役職員は1名だけだった。その人は、希望したら「職免」で参加できたと言っていたが。
- 内容的には、受入れ側の親切さから言っても三康図書館はまた紹介したいところだが、

コロナ後ということもあるが、平日昼でも夜でも、または週末でも、どれだけ人が集まるか疑心暗鬼になってしまう。

- ・この場で提案は出せないが、見学会でも単発の講演会でも入れられたらいい。検討してほしい。

(7) その他、情報交換

- ・総会後の、役所等への事務作業の完了について
- ・東久留米市から提供申込があつて募集をかけていた「里親探し」の結果について
- ・館長会三役への年度初めの挨拶について

【多摩デポ関係記事】

- ・特になし

【共同保存図書館関連論文、記事】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ 事務局会議(2024年度第7回) 7月3日(水)午後8時より、(Zoom会議)
- ★ カーリルとの共同研究 定例会 7月23日(火)午後8時より、(Zoom会議)
- ★ 次回理事会 第5回理事会 8月7日(水)午後8時より、(Zoom会議)

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、雨谷理事、堀理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024年6月18日

議長 座間直壯

議事録署名人 雨谷逸枝

議事録署名人 堀 渡